

県政とどう向き合い、働きかけたか

県政懇談会 4年間を振り返り、来期を展望する

群馬県議会は、この3月の議会で4年間の任期を終え、4月に改選を迎えます。伊藤祐司、酒井ひろあき両県議と、高崎、伊勢崎の党県政対策責任者の大沢あや子、小林その子両氏が、この4年間の県政と共産党県議団の活動を振り返り、来期を展望します。

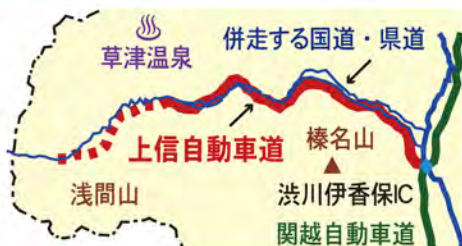


「予算をつける優先順位」が県政の大きな争点

酒井 山本県政はこの間、台風災害や豚熱などの事態に機敏に動くなど評価できる面もありましたが、デジタル普及に前のめりでマイナンバーも国の悪政のお先棒を担っています。共産党県議団としてどう向き合い、働きかけたか、出しましょう。

不要不急の開発に巨額の予算

大沢 伊藤県議の最後の本会議質問(2/27)を傍聴しました。前半は「予算の優先順位」という切り口での質問でしたね。



伊藤 山本県政になって、不要不急の開発予算は多少減りましたが、それでも幹線道路建設に年間200億円は出ているんです。



国道も県道も通っていて交通量も減っている吾妻川沿いに造っている上信自動車道は、無駄な開発の典型ですよ。

酒井 一方で、深刻な事態に陥っている子育てや教育が後回しにされています。どちらを優先させるか——財政が潤沢な時ではないわけだから、県政運営の大きな争点ですね。

教員不足解消や保育士配置こそ優先



酒井ひろあき (57)

県議会議員(前橋市選出・3期)金沢大卒。病院職員、党県議団事務局長など歴任。

小林 教師不足で校長先生が授業をやらざるを得ない状況や、年長児は保育士1人で30人をみるとか、70年以上変わらない劣悪な保育士配置基準で、子どもの安全も脅かされている保育園の現状など、リアルな実態が出されると、どちらが優先なのか感覚的にわかりやすいですね。

酒井 例えば、1歳児の保育士配置基準。群馬県が現在助成している1:5から隣県並の1:4にするのに必要な予算は、3億5千万円程度。ぐんまちゃんのアニメ製作に5億円かけるのならば、どちらが急がれるか、ということですよ。

大沢 国政や市政と比べて、県政が市民からは遠い存在に感じられるだけに、そうしたリアルさが大切ですね。「福祉のレベル」を決める役割が県政にあるわけ

ですから、他県との比較も参考になります。

18歳までの医療費無料化が実現

小林 そういう点で大きく前進したのが子どもの医療費無料化ですね。県は高校卒業世代まで拡大すると決めました。

酒井 市民のみなさんが粘り強い運動で世論をつくり、議会への請願を重ねてきました。共産党県議団は、その実現を議会で繰り返し主張しました。請願採択はじゃましてきたのに、知事が予算化しそうだともみると、にわかには主張しだす自民や公明とは真剣さが違います。

大沢 議会の外の市民運動と力を合わせて質問するから、2人の県議なのに力を発揮できるんですね。次はいよいよ学校給食無料化ですね。

学校給食の無料化全県に



小林その子 (66)

伊勢崎市喜多町生まれ。小学校、特別支援学校で教職。介護福祉士の資格取得。

酒井 私たちが12年前の選挙で公約に掲げて以来、県内自治体の圧倒的多数が取り組む施策になりました。(下図)全国的にも300近い自治体が無料化に踏み出します。

伊藤 義務教育は無償という憲法の理念からみても、子育ての負担軽減からみても望まれている施策です。県として制度をつくれば、全自治体で完全無料化が進むことはまちがいありません。「県民の幸福度向上」

学校給食無料化の実施予定 2023.4~



大沢あや子 (48)

高崎市中尾町在住。「しんぶん赤旗」県記者、党県議団事務局長など歴任。

を県政の目標にかかげる山本知事に、最適な施策として実現を迫って行きましょう。